

大きり島大りれないい 藤ふきり島小りち色い かわり藤ふきり藤色中二玄ゆんきり島みとり色こり

櫻さきり島小りらいい めきり島大りれないい かこしまきり島としまべにきり島とほつこり

八ち重きり島赤せんやん 中ちきり島中りれないい くちばきり島中りちば色も、きり島中りいる

初はきり島小りむらさ 小てうきり島赤りん 大きり紫こいむらさ 銀だいし赤中りありこ

金だいし赤中りありこ せいさん玉子色なり中りかきひとしほ花色大りのん

こけん萬葉中りあ八重やしほ花形白く丸くし かうばい中りれないい いさはい大りれないい

玄もふりだんへらるふた小ざくら小りあかし 玄やくま赤小り重 さんわう中りす紫

りうきうあるしし ざい花形きりさくあげてさ江戸ざい是もきれさし たなばた八重かしと

紫七夕重ひとりへん八 金しでのこきべはじか色でり 玉や紫こいむらさ もちつ、じ大白りす紫色と

せいがいはあか小紫せいがいはむらさき 玉や紫こいむらさ たいたん赤大り下略ふ

〔花壇綱目〕下躑躅異名の事

せんよ かも紫 花月 まんよくわ山 おち合玄こん ふさ紅折入段 やしほ身

を 玄つめ せんざん 八はし 明ぼの 金玄で 朝がほ 三吉野 そし段西行 はつ

雪 御所紫 花車 對馬紫 せいはく ざい紅 駿河万よ略中

右は躑躅の名なり、此外數多有之、あらましばかり、玄るし置なり、年々の二月中旬より、三月中

旬までに玄のふ土を用、取木指木にする也、同じ木のうちに、色たて咲出し、少づ、のかわり

有て、名をあらため付るなり、

〔和漢三才圖會〕九十五豆荳躑躅 俗云末女加良豆荳之

按、豆荳躑躅、深山巖石間有之、三四月開花似美容柳花、而黃色、其葉四時不凋、端卷反似豆空莢、故

山中有之、